

作左通信



第七十五号 平成二十七年十二月二十四日(木) 発行

ふるさと六ツ美を詠む

十一月二十九日(日)六ツ美西部学区市民ホームで、一筆啓上・作左の会主催第十二回ふるさと賞表彰式が、百七十名の参加者を迎えて大広間で盛大に開催されました。

はじめに、俳句と短歌の最優秀賞、優秀賞の表彰がありました。続いて、兵藤会長より「今回は十二回目で多くの応募者があり、俳句千九百五句、短歌千四百十二首の応募がありました。今年、悠紀齋田一〇〇周年を詠んだ唄が多かった。」との話が



最優秀賞受賞者全員の記念撮影

ありました。柵木誠市議長より祝辞を頂き、続いて選者代表の講評があり、どの作品も六ツ美を想う気持ちがよく表れているとお褒めの話がありました。

俳句の部 一般 岡崎市長賞を受賞して 柱場二丁目 芦澤 泉

○齋田や稲穂に神の風渡る

これは凄いと思いました。

この句は、六ツ美悠紀齋田百

写真やネットで調べたりし

周年記念お田植えまつりが開催

たものとは違い、齋田を前にし

されたので、「悠紀の里」を訪れ

て受け継がれてきた重みに日本

現地を見ながら作りました。展

の伝統が息づき、ここには神の

示室見学、サポーター会の冊子

風が吹いていると感じました。

を読み、齋田の入口に立った時、

選考して頂き感謝申し上げます。

短歌の部 岡崎市長賞を受賞して 六ツ美中学校二年 小澤 咲来

○年一度祖父母の誇り盆に聞く六ツ美の歴史私の故郷

この短歌は、毎年盆正月に六ツ美の昔の様子を話してくれる 豊かなこの六ツ美の両方が私の

ひいお婆ちゃんを思っ作ります

故郷です。

した。ひいお婆ちゃんの教えて 分の将来の子供たちに六ツ美の

くれる私の知らない六ツ美の歴史 すばらしさを、ずっと伝えてい

史と、私が見たり体験する自然 きたいと思えます。

お知らせ 「ふるさと六ツ美西部写真史」は残り少なくなっています。希望する方は、早目に各町総代までお申し出ください。